

「曲がり盲 (Curvature Blindness)」

高橋康介 (中京大学心理学部)

E-mail: takahashi.kohske@gmail.com

〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町 101-2 中京大学心理学部

Tel : 052-835-7185

背景がグレイの領域には折れ線 (三角波・ギザギザ・ジグザグ) と曲線 (正弦波・ナミナミ・ウネウネ) が二本ずつ交互にあるように見えるが、実際は横線の形状は全て同じ曲線である。線は濃淡のグレイで描かれていて、折れ線に見えるものは「曲がり」のあたりで濃淡が切り替わっている。これにより「曲がり」が見落とされ、折れ線に見えてしまうらしい。

錯視量は極めて大きく、「本当に同じ形の線なんですけど・・・」と言っても、なかなか信じてもらえない。

背景が白や黒だと錯視量は激減する。「曲がり」のあたりで背景に対する明暗の反転が起こっていることが、曲がり盲を引き起こしているようである。

線の「曲がり」知覚という視知覚の基本とも思われる処理の中で、このように単純な原因の「盲」現象を示すことは、視知覚の機序の解明という点でも科学的な意義が極めて大きい。

ヒト以外の動物でも同じ錯視が起こるといふ噂がある。